

Ⅱ 教養教育について (農学部共同獣医学科を除く)

1 教養教育の理念

岩手大学は、各学部が行う専門教育とならんで、所属する学部にかかわらず全学生が共通に受けるべき教育として教養教育を設け、「世界や地域で活躍できる人材を育成する上で必要となる多様な学問領域の基礎的知識及び基本的思考力、幅広く深い教養と総合的な判断力、地域の発展に貢献できる豊かな人間性と高い倫理観並びにコミュニケーション能力を涵養する」ことをその理念としています。

この理念を実現するために、教養教育は岩手大学の全ての教職員の関心・責任・協力のもとに実施されています。

教養教育科目は、「実践知科目」、「技法知科目」及び「学問知科目」によって構成されています。

2 教養教育の教育目的と修得すべき能力

教養教育における人材養成像を以下のとおり明示します。

教養教育の教育目的及び修得すべき能力

〈教育目的〉

岩手大学は、すべての学生が共通に学ぶべき教養教育を提供し、それぞれの学生が所属する学部にかかわらず、多様な学問領域の基礎的知識と基本的思考方法を修得するとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を身につけ、社会や文化の持続的発展に貢献できる豊かな人間性と高い倫理観、ならびに多様な人びとと協働するためのコミュニケーション能力を培うことを目的とする。

〈修得すべき能力〉

教養教育では、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自らの意欲や関心にに基づき主体的に学び続ける能力
- (2) 自ら問題を発見し、それを探究し解決する思考力と判断力
- (3) 複雑化する社会に適応するために必要な情報を収集し処理する基本的能力
- (4) 幅広い学問領域の知識を身につけ、専門分野に対する複合的視点を獲得するための総合的能力
- (5) 多様な人びとと協働するために必要な母語と外国語による基本的コミュニケーション能力
- (6) 心と体の健康を保つ手段や方法を獲得するために必要な基礎的人間力

各科目区分等の教育目的及び修得すべき能力

A 実践知科目

<教育目的>

「実践知科目」は、技法知・学問知で培った知識や情報、技能を活用する能力を基礎に、さまざまな客体に対する理解と働きかけについて実践的に学修し、身につけた知識を主体的に実践化することを目的とする。

<修得すべき能力>

「実践知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 技法知・学問知科目で得た知識や情報を活用して課題を発見し解決する能力
- (2) 社会における自らの役割を認識し、責任感をもって主体的に行動する能力
- (3) 他者と協働して多様な意見を調整し、解決策を見出す能力

1. 転換教育科目

<教育目的>

「転換教育科目」は、初年次教育のイントロダクションとなる教育プログラムであり、新入生が高等学校までの受動的な学習態度や生活のあり方を転換し、大学における能動的な学習スタイルや大学での新しい生活環境に支障なく速やかに適合し、自ら主体的に学ぶ力を身につけることや社会的規範・倫理を学ぶことを目的とする。

<修得すべき能力>

「転換教育科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 基本的なアカデミックスキル
- (2) 学習計画を立案する能力と教育資源を有効に活用する能力
- (3) コミュニケーション能力と社会的倫理観

・基礎ゼミナール

<教育目的>

「基礎ゼミナール」は、オリエンテーション、ゼミナール及び教室外活動を通じて、高校時代の教育環境とは質的に異なる大学における学習スタイルや生活環境に新入生が支障なく適合でき、大学における学びに必要なアカデミックスキルを修得することを目的とする。加えて、地域について現状を知り理解を深めることを目的とする。

<修得すべき能力>

「基礎ゼミナール」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自己の表現力やプレゼンテーション能力
- (2) 自主的な学習態度や学習への積極的な意欲
- (3) 論理的に思考し、自ら課題を探究するために必要な基礎的能力
- (4) 図書館や情報検索等の学習資源を有効に活用する能力
- (5) 地域の現状を積極的に知り理解しようとする意欲

2. 地域関連科目

<教育目的>

「地域関連科目」は、異分野の専門家と協働し、自らの専門性を地域の課題解決へ実践することができる能力を養うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「地域関連科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 異なる専門分野の者と協働して課題の発見・解決に取り組むことができる能力
- (2) 地域社会の現実に即して地域の課題解決に取り組む実践能力

・初年次自由ゼミナール

<教育目的>

「初年次自由ゼミナール」は、学部の枠を越えてあるテーマに沿って課題と取り組み、教員及び学生同士が互いに討論し、幅広い学びの意義を確認することを目的とする。

<修得すべき能力>

「初年次自由ゼミナール」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自らの専門分野と異なる知識を修得し、自ら課題を設定する能力
- (2) 他者の異なる意見も理解したうえで、共同して作業を進める能力
- (3) 自らの考えや調査結果を他者に明確に伝える能力

・地域課題演習

<教育目的>

「地域課題演習」は、専門性を修得しつつある2年生以上の学生が地域社会にある具体的課題の解決に向けて、身につけた専門的知見を実践活動と結びつけるための考え方や方法を学び、課題解決に必要な思考力・判断力を養うことを目的とする。

＜修得すべき能力＞

「地域課題演習」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 専門分野による観点や方法の違いを理解した上で、異なる専門分野と協働して現実問題を積極的に解決しようとする意欲
- (2) 多様な人びとともに課題解決に向けた協力体制を組織できるコミュニケーション能力
- (3) 技法知・学問知科目で得た知識を社会での実践活動に活かす意欲と行動力
- (4) 自らの専門性を課題の発見と解決に活かす能力

B 技法知科目

〈教育目的〉

「技法知科目」は、①外国語科目と情報科目の学習を通じて、学問知科目ならびに専門教育科目の学業を進めるうえで、さらに卒業後に社会生活を営むうえで必要となる基本的技能やその基礎となる知識を身につけるとともに、②健康・スポーツ科目の学習を通じて、社会生活を営む基盤となる健康・体力の増進を図ることを目的とする。

〈修得すべき能力〉

「技法知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 外国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる能力
- (2) 情報の収集・加工を適切に行うことができる能力
- (3) 自ら健康・体力の保持増進を図ることができる能力

1. 外国語科目

・英語

〈教育目的〉

「英語」は、学生が英語を通して他国及び自国の文化や社会に関する理解を深め、英語を用いて積極的にコミュニケーションをとる姿勢を養成することを目的とする。

また、英語を自律的に学習する習慣を身に付けさせ、修得した英語力を利用して、情報を効率的に収集したり、情報発信する能力を向上させることを目的とする。

さらに、英語による異文化コミュニケーションの在り方について認識を深めさせることも目的とする。

〈修得すべき能力〉

「英語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 十分な英語力を身につけていない習熟度が初級の学生にとっては、英文法や基礎的語彙・表現などの復習を通して、英語の基礎的な読み書き能力を修得し、それらを応用して簡単な日常会話ができるコミュニケーション能力
- (2) ある程度の基礎力を既に身につけている習熟度が中級の学生にとっては、様々なテーマについて書かれた入門レベルの英文を読みこなせる読解力、平易な英語を使って英文が書ける作文力、身近な話題について説明したり、簡単な意見を述べたりすることができるコミュニケーション能力
- (3) 高度な英語力を有する習熟度が上級の学生にとっては、各自の専門領域に関する複雑なテキストを正確に理解できる読解力、多様なトピックについて適切な英語表現を用いて英文が書ける作文力、相手に自分の意思を的確に伝えたり、論理的に意見を述べたりできるコミュニケーション能力
- (4) 上記、いずれの習熟度の授業においても、異文化に対する理解を深め、促進する。

・英語以外の外国語

〈教育目的〉

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」は、外国語の文法を習得した上で、①日常生活に必要な基本的な会話ができるようにすること、②外国語で書かれた文章を読むことができるようにすること、③日常生活で使う文章を外国語で書けるようにすること、④外国語学習を通して、異文化理解の基礎的知識を獲得すること、の4点を身につけることを目的とする。

〈修得すべき能力〉

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

初級外国語（入門・発展）では、

（１）下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力

- ・ドイツ語技能検定試験 4級
- ・実用フランス語技能検定試験 4級
- ・ロシア語能力検定試験 4級
- ・漢語水平考試 2級
- ・韓国語能力試験 TOPIK II（3～6級 120点以上）
- ・ハンデル能力検定試験 5級

（２）外国語を用いて、基本的なコミュニケーションを行うことができる能力

（３）易しい文章を読んだり書いたりできる能力

（４）国際化社会に対応できる、異文化を理解するための基礎的知識

中級外国語では、

（１）下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力

- ・ドイツ語技能検定試験 3級
- ・実用フランス語技能検定試験 3級
- ・ロシア語能力検定試験 3級
- ・漢語水平考試 3級
- ・韓国語能力試験 TOPIK I（1～2級 140点以上）
- ・ハンデル能力検定試験 4級

（２）外国語を用いて、より高度なコミュニケーションを行うことができる能力

（３）やや難解な文章を読んだり書いたりできる能力

（４）国際化社会に対応できる、異文化を理解するための知識

・日本語

〈教育目的〉

「日本語」は、外国人留学生を対象とし、上級レベルの四技能（読む・書く・聞く・話す）の指導を通じ、日本語による情報収集、口頭発表、論文作成、討論など大学の授業や研究活動に日本語を使用して参加する力の養成を目的とする。

〈修得すべき能力〉

「日本語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

（１）文法力、読解力、聴解力については日本語能力試験N1レベル以上の能力

（２）レポート、小論文等の文章作成力、および、討論、口頭発表等の口頭表現力等、外国語共通参照枠(CEFR)のC1レベル以上の日本語能力

2. 健康・スポーツ科目

〈教育目的〉

「健康・スポーツ科目」は、スポーツを行うことによって健康と体力の保持増進を図り、コミュニケーション能力を高めるとともに、スポーツ科学やスポーツ文化についても理解を深めながら、生涯にわたりスポーツを実践する力を養うことを目的とする。

〈修得すべき能力〉

「健康・スポーツ科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

（１）スポーツ活動を通じて健康と体力の保持増進を図る能力

（２）スポーツを科学的・文化的に理解し、上手にコミュニケーションを図れる能力

3. 情報科目

〈教育目的〉

「情報科目」は、高度情報化社会において社会生活を営む上で必要となるコンピュータと情報処理に関する基礎的知識と技能を習得することを目的とする。

〈修得すべき能力〉

「情報科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) コンピュータの基本的な仕組みを理解し、目的に応じて使うことができる基礎的な能力
- (2) 多種多様な情報から必要な情報を獲得し、目的に向けた適切な処理を行う基礎的な能力
- (3) 情報を適切に受発信するための基礎的な能力
- (4) 情報化社会におけるモラルや社会的な問題を理解し、適切な行動をとることができる能力

C 学問知科目

〈教育目的〉

「学問知科目」は、在学生在が諸学問分野の「ものの見方・考え方」を幅広く学ぶことによって、自分自身の専門分野が全体の中でどのような位置にあり、どのような意味・役割を持っているかを理解するとともに、専門を深める上で必要な幅広い教養を身につけることを目的とする。

〈修得すべき能力〉

「学問知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 物事を多面的な角度から考察できる能力
- (2) 多様な価値観を受け入れることができる能力
- (3) 自然・人間・社会との関係において、各種の常識・通念を根底的に捉え直せるような「ものの見方・考え方」ができる能力
- (4) 激動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できる、総合的判断を行える能力

1. 文化

〈教育目的〉

「文化」は、人文科学における各学問分野の観点から、多様な文化がそれぞれどのように形成され、人間にとってどのような意味や機能（はたらき）をこれまでもってきたか、そして現在もっているかを理解し、また人間の心に関する諸問題を理解することを目的とする。

〈修得すべき能力〉

「文化」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 各種の文化や人間の心について多角的に分析・把握できる能力
- (2) 各種の文化や人間の心についての諸見解を批判的に検討し、自分なりの見解を打ち出すことができる能力

2. 社会

〈教育目的〉

「社会」は、社会で生じている様々な問題を社会科学の各学問分野の視点から取り上げることによって、問題の背後にある諸要因やそこに働いている論理を理解するとともに、それら問題が私たち一人ひとりにとって持つ意味を理解することを目的とする。

〈修得すべき能力〉

「社会」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 社会問題が生じている基本的背景を多面的・総合的に分析・把握できる能力
- (2) 社会問題に対する諸見解を批判的に検討し、自分なりの見解を打ち出すことができる能力

3. 自然&科学技術

〈教育目的〉

「自然&科学技術」は、身の回りの自然科学や、暮らしと関係する科学技術における各分野の視点から、人間と自然とのかかわりをめぐるさまざまな問題を取り上げることによって、専門を深めるうえで必要な幅広い教養を身につけることを目的とする。

〈修得すべき能力〉

「自然&科学技術」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 人間と自然とのかかわりを多面的な角度から考察できる能力

- (2) 自然科学や科学技術に関する初歩的な専門的知識に基づく考え方ができる能力

4. 環境科目

〈教育目的〉

「環境科目」は、本学における環境教育の出発点として位置づけられていることから、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、環境についての多角的な「考え方」を養うことを目的とする。

〈修得すべき能力〉

「環境科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 環境を、自らの主観によるのではなくデータなどに基づき客観的に理解する能力
- (2) 環境を、文系、理系などの自らの学ぶ専門領域を超えて、広い視野から理解する能力
- (3) 環境に関する問題を、人間や生物の生存と深くかかわるものと理解し、自らの問題として思考する能力

5. 地域科目

〈教育目的〉

「地域科目」は、岩手の地域に関することを様々な分野・視点から学び、岩手の歴史・文化・特色を理解し、地域社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的判断力を培うことを目的とする。

〈修得すべき能力〉

「地域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 多角的・複眼的な視点によって、岩手の地域社会を全体的に把握できる能力
- (2) 総合的な判断に基づいて、岩手の地域社会の諸問題に対して柔軟に対応できる能力